

令和 2 年 7 月 1 日現在

機関番号：32639

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H05585・19K20794

研究課題名(和文)単一言語的環境下での多言語グローバル社会に向けた英語及び異文化教育

研究課題名(英文)English and transcultural education towards a multilingual global society in a 'monolingual' context

研究代表者

石川 友和 (ISHIKAWA, Tomokazu)

玉川大学・ELFセンター・助教

研究者番号：00826323

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：日本語が支配的な大学・学部における、グローバルな多言語多文化社会に向けたコミュニケーション教育の方法とその意義に関して、次の3点で成果が得られた。(1) 人文系専門科目によるEMF(多言語主義における共通語としての英語)認識：理論的研究成果を書籍の一章で発表し、実践的研究成果に関する論文が国際学術誌に採択された。(2) EMF認識の英語科目への応用：一連の学術交流をもとに、英語教育改革に関して国際学術誌で発表した。(3) 超文化コミュニケーション教育の確立：異質性や地域性に縛られないアプローチに関する草分けの教科書を研究協力者と共著執筆中であり、まもなく最終稿を出版社に提出する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバルな多言語多文化社会に向けたコミュニケーション教育に関して、上記3点それぞれで次の意義がある。(1) 人文系専門科目によるEMF認識：本テーマによる先行研究はなく、特にELT Journal論文発表後は、これからの教育論議に貢献できるはずである。(2) EMF認識の英語科目への応用：Journal of ELF論文で発表した方向性は、この分野の国際学会でこれからも継続的に議論される予定である。(3) 超文化コミュニケーション教育の確立：グローバルコミュニケーションを多言語主義と超文化の切り口から捉えた教科書は、流動性社会で活躍する次世代に役立つはずである。

研究成果の概要(英文)：Unlike in multilingual communication scenarios today, in the Japanese context, instructors and all students often share their mother tongue in English language teaching (ELT) and English medium instruction (EMI). The current project re-conceptualises multilingualism in L1-shared scenarios and advocates empirically based teaching practices in L1-shared ELT and EMI classrooms to prepare students for today's mobility and English-within-multilingualism. Papers on multilingualism and an ELT programme have been published as a book chapter and a Journal of ELF article respectively. Also, a research article on what it calls EMF awareness has been accepted by ELT Journal (for English as a multi-lingua franca or EMF, see Jenkins 2015). Apart from these publications, a university course book entitled "Transcultural communication through English in a multilingual world" will be made available in 2021, which will facilitate teaching what global communication is like with a focus on culture.

研究分野：応用言語学

キーワード：共通語としての英語 多言語主義 英語教育 異文化教育 トランス理論

1. 研究開始当初の背景

高等教育にてグローバルな多言語多文化社会に向けた人材育成を目指す上で、応用言語学の先行研究から次のような課題が浮き彫りとなった。

- 英語の多様性に関する研究とは对象的に、英語を多言語多文化の枠組みで捉え直す理論的研究が進んでいない。
- 多言語多文化社会におけるグローバルコミュニケーションそのものを専門科目として教えるための実践的研究が進んでいない
- 同様に、多言語多文化社会におけるグローバルコミュニケーションに向けた英語教育の方法に関する実践的研究が進んでいない。

さらに、我が国には日本語が支配的な大学・学部が散見され、実際のグローバルコミュニケーションとは対照的に、学生は単一言語的環境で学ぶことも多い。

2. 研究の目的

本研究は、「1. 研究開始当初の背景」の現状を踏まえ、グローバルコミュニケーション研究・教育における今後の発展への貢献を目指した。日本の大学を研究対象とし、特に、グローバルコミュニケーションの実状と乖離していると思われる、教員と全学生が母語を共有している状況に焦点を当てた。具体的な目標は以下に集約される。

- 日本の高等教育でのグローバルコミュニケーションが果たす役割を理解する前提として、学校教育における英語科目を、グローバルコミュニケーションの視座から理論的にどのように理解できるか明らかにする。
- 多言語社会でのグローバルコミュニケーションを対象とする大学設置の専門科目や英語科目において、教員と全学生が母語を共有している場合、どのようにして教室内外の英語コミュニケーションを有機的に結び付けられるかを明らかにする。
- 高等教育でのグローバルコミュニケーションに関する専門科目や英語科目の実践例に関する研究論文、及び母語を共有している大学の教室で使用できる教科書を出版する。

高等教育における単一言語的環境は日本以外でも見受けられることから、研究結果を国内外に発信していくことを目指した。

3. 研究の方法

「2. 研究の目的」の理論的研究に関しては、文献研究と学会発表を重ねながら、学校教育における英語科目の役割とグローバルコミュニケーションにおける英語運用との関連性を徐々に明らかにしていった。具体的には、第二言語習得理論、多言語習得理論、トランス言語理論、及び複雑性理論に依拠しながら、ジェンキンス氏により提唱された「多言語主義における共通語としての英語(EMF)」(Jenkins, 2015)の理論的發展を試みた。

また、グローバルコミュニケーションを対象とする専門科目に関して、招へい講師との議論、英国への研究訪問、学会発表、新たなコミュニケーションデータの取得を通じて、言語・文化・伝達様態を軸とする体系的指導内容を構築しつつある。具体的には「共通語としての英語(ELF)」と「異文化コミュニケーション(IC)」という2つの分野の一層の融合を目指しながら、新たに取得したデータに談話分析や会話分析を加えた。

さらに、グローバルコミュニケーションを対象とする専門科目と英語科目に関して、教育的介入研究を完了した。自由形式アンケートによるデータは、質的内容分析法(e.g. Schreier, 2012)によって詳細に解析した。

4. 研究成果

EMF 認識というキーワードを提唱しつつ、理論的研究成果を書籍の一章で発表した(Ishikawa 2020)。そこでは、学校教育におけるいわゆる「標準英語」がグローバルコミュニケーションと矛盾するものではないこと、及び、イデオロギー的存在である言語と、実社会での言語リソース運用との関連性が説明されている。

また、その運用を促す実践的研究成果に関する論文が、国際学術誌に採択された(Ishikawa 2020 in press)。そこでは、学術出版物から会話抄録を引用したり、オンラインによる国際連携を活用したりしながら、学生自らがグローバルネットワークを見つけ出し、協同学修を通じて主体的にグローバルコミュニケーションに関わっていくための教育方法が提案されている。この方法は、グローバルコミュニケーションに関する専門科目、及び英語科目の両方で実践可能である。同時に、招へい講師との議論や学会発表を通じた一連の学術交流をもとに、英語教育改革に関する論文を国際学術誌で発表した(Ishikawa & McBride 2019)。

さらに、異質性や地域性に縛られないアプローチに関する草分け的教科書を研究協力者と共著執筆中であり、まもなく最終稿を出版社に提出する(Baker & Ishikawa 2021 in

preparation)。

EMF の理論的發展はまだ始まったばかりであり、その教育実践に関する先行研究はなく、これからの教育論議に貢献できると自負する。また、多言語、超文化、及び言語のみに執着しないグローバルコミュニケーションへのアプローチは、ELF という分野での国際学会でこれからも継続的に議論される予定である。さらに、3 つの段階的レベル、全 14 章で構成されるグローバルコミュニケーションに関する教科書には、日本語を母語とする英語話者の例も多く取り入れられており、普段は日本語を多く使用しながらも、将来は流動性社会で活躍することになる次世代にとって、必ずや役立つ教材になるであろう。

引用文献

- Ishikawa, T. (2020). Complexity of English as a Multilingua Franca: Place of monolingual Standard English. In M. Konakahara & K. Tsuchiya (Eds.), *English as a lingua franca in Japan: Towards multilingual practices* (pp. 91-109). Palgrave Macmillan.
- Ishikawa, T. (2020 in press). EMF awareness in the Japanese EFL/EMI context. *ELT Journal*, 74(4).
- Ishikawa, T., & McBride, P. (2019). Doing justice to ELF in ELT: Comments on Toh (2016). *Journal of English as a Lingua Franca*, 8(2), 333–345.
- Baker, W., & Ishikawa, T. (2021 in preparation). *Transcultural communication through English in a multilingual world*. Abingdon: Routledge.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Ishikawa, Tomokazu & Jenkins, Jennifer	4. 巻 5
2. 論文標題 What is ELF?: Introductory questions and answers for English language teachers	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Center for English as a Lingua Franca Journal	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ishikawa, Tomokazu & McBride, Paul	4. 巻 8
2. 論文標題 Doing justice to ELF in ELT: comments on Toh (2016)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of English as a Lingua Franca	6. 最初と最後の頁 333-345
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1515/jelf-2019-2026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishikawa, Tomokazu	4. 巻 74
2. 論文標題 EMF awareness in the Japanese EFL/EMI context	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ELT Journal	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/elt/ccaa037	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 2件／うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Ishikawa, Tomokazu
2. 発表標題 EFL and ELFing: Friends, foes, or 'frenemies'?
3. 学会等名 ELFing up the classroom: Pedagogy and materials（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ishikawa, Tomokazu
2. 発表標題 ELF: Metatheory and theories
3. 学会等名 CELF Research & Faculty Development Workshop 1
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishikawa, Tomokazu
2. 発表標題 ELF & ELT: Where are we now?
3. 学会等名 第8回早稲田ELF国際ワークショップ&シンポジウム(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishikawa, Tomokazu
2. 発表標題 EMF awareness: A pedagogic application of EMF, transculturality, and transmodalities
3. 学会等名 University of Southampton's Centre for Global Englishes Seminar
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishikawa, Tomokazu
2. 発表標題 ELF & ELT: Introduction
3. 学会等名 CELF Research & Faculty Development Workshop 2
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishikawa, Tomokazu
2. 発表標題 EMF awareness: From a monolingual fiction to the multilingual reality
3. 学会等名 第12回ELF国際学会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川 友和
2. 発表標題 多言語主義における共通語としての英語
3. 学会等名 大学英語教育学会第2回ジョイントセミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishikawa, Tomokazu
2. 発表標題 Doing justice to ELF in ELT
3. 学会等名 2019玉川大学英語教育セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishikawa, Tomokazu
2. 発表標題 English as a Multilingua Franca in ELT: Beyond ideological monolingualism
3. 学会等名 大学英語教育学会第58回国際学会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishikawa, Tomokazu
2. 発表標題 How multilingual are ELF scenarios?
3. 学会等名 第1回大学英語教育学会ELF研究会国際ワークショップ（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Ishikawa, Tomokazu	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 91-109
3. 書名 Complexity of English as a Multilingua Franca: Place of monolingual Standard English - In M. Konakahara & K. Tsuchiya (Eds.)	

1. 著者名 Baker, Will & Ishikawa, Tomokazu	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 -
3. 書名 Transcultural communication through English in a multilingual world	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>UNITAMA 研究者業績一覧: 石川 友和 https://unitama.tamagawa.ac.jp/up/faces/up/po/Poa00601A.jsp</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----